



関西国際空港で 自走式セルフチェックインロボット、 「KATE」の実証運用を実施 ～アジアの空港初、最先端技術導入で待ち時間の短縮をめざします～

関西エアポート株式会社は、関西国際空港において、アジアの空港で初めてとなる、自走式のセルフチェックイン機「KATE（ケイト）」の実証運用を行います。「KATE」は、航空データ通信技術を扱う団体 SITA が開発し、現在実証運用中の自動チェックインロボットです。

今回の実証運用は、当社で取り組んでいる「ファストトラベル(*)」の一層の促進、および空港内での最先端ロボット技術活用の第一弾として実施を決定しました。

本機は、搭載されたアプリケーションで空港内の位置情報を記憶し、バッテリー機能を利用したコードレスアクセスで、混雑しているカウンター付近へ自走します。そして、Wi-Fi を通じて航空会社のチェックインシステムと通信を行いながら、既存の固定式セルフチェックイン機と同様の機能をお客様に提供します。

さらに、フライト情報や旅客流動などの空港運用情報をもとにした事前プログラミングにより、状況に合わせた流動的なチェックインの補助が可能です。本機の導入により、お客様のチェックイン時の待ち時間短縮とストレス軽減に寄与します。

また、チェックインカウンター付近を安全に移動することが可能な衝突回避機能や、バッテリー残量に応じて自動でドッキングステーションへ戻り充電する機能も備えており、メンテナンスフリーが特長です。

SITA のアジア太平洋担当責任者 Sumesh Patel 氏は今回の実証運用について、以下のようにコメントしています。

「日本はロボットの技術革新・知能化技術で常に世界をリードする国です。関西エアポートが業界に先駆けて SITA の高知能チェックイン機 KATE の実証運用に取り組まれるのも何ら不思議なことではありません。SITA は 3 年間、関西エアポートの技術パートナーを務めてきました。同社と連携して、高知能チェックイン機を導入し、お客様のエクスペリエンス向上を図れることを大変嬉しく思います。KATE は、フライト、旅客動線などの各種データをもとに自動チェックイン機の追加が必要な場所を特定し、乗客の待ち時間を緩和します。SITA は関西エアポートと協力して、この新技術が空港内での旅客エクスペリエンスの更なる向上にどのように役立つかを評価します」

関西エアポート株式会社は、今後も最先端技術を積極的に導入し、空港の利便性向上に努め、快適で新しい旅の体験をご提供いたします。

(*)ファストトラベル：IATA（国際航空運送協会）や ACI（国際空港評議会）が提唱する、空港での利用者の手続きをよりスムーズにすることで効率的なサービスの提供を目指す取り組みのこと。



実証運用概要

○期間：2018年2月5日～2月28日 *実施日時は、館内状況等を勘案して調整予定

○台数：2台

○参画航空会社：

エールフランス航空



中国国際航空



キャセイパシフィック航空



日本航空



大韓航空



KLM オランダ航空



全日本空輸




アジアナ航空

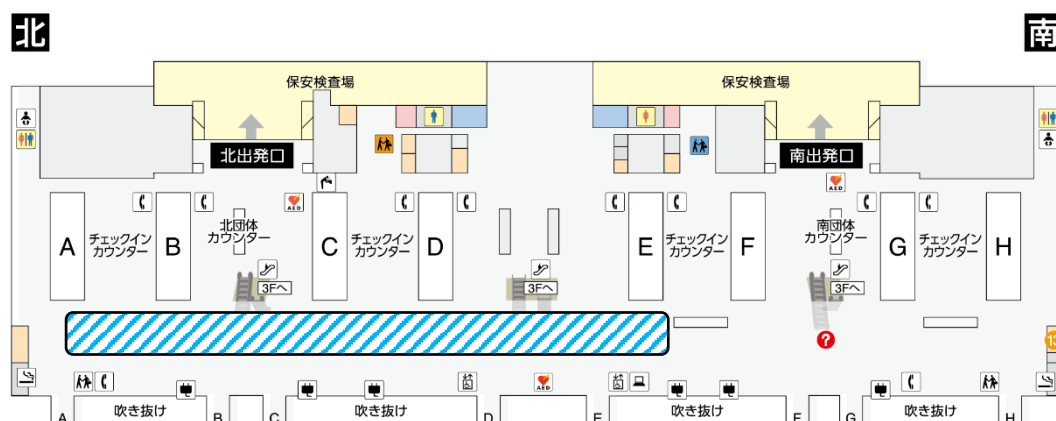


ユナイテッド航空



○場所：関西国際空港 第1ターミナルビル4階国際線出国エリア

※  部分を中心に稼働予定



○実証機の概要：

・SITA ニュースリリース (英語)

<https://www.sita.aero/pressroom/news-releases/sitas-robotic-kiosk-to-the-rescue-in-busy-check-in-areas>

・実証機動画 (英語)

<https://www.youtube.com/watch?v=oQ69r-2VX-I>

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社

コーポレートコミュニケーション部

Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。

詳しくは、関西エアポート株式会社ホームページ：www.kansai-airports.co.jp/をご参照ください。

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である“「金融+サービス」の加速化”、“アジア等新興国の成長を取り込む”を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、35空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス13空港、ポルトガル10空港（リスボンのハブ空港含む）、カンボジア3空港、日本2空港、ドミニカ共和国6空港、そしてチリのサンチャゴ空港には、合計で200社を超える航空会社が就航し、2016年の旅客者数は1億3,200万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとして、1万1,000人のスタッフの専門知識と経験を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして既存空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設を行っています。2016年の連結売上高は10億5,000万ユーロに達します。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構